I-O DATA

画面で見るマニュアル

ファイル同期ツール クローン for Windows

同期時の制限 14ページ

- ●クローン元またはクローン先のボリューム容量は32TBまで対応しています。32TBを超える場合は 非対応です。
- ●登録できる最大ジョブ数は、15個までです。
- 1 ジョブ当たり同期可能な最大ファイル数は、64bit 時は480万ファイル、32bit 時は15 万ファイルまでです。(フォルダーを含む)
- ●同期スケジュールは夜間など、同期元で他のアプリが動作していない時間帯に設定してください。

導入する	5
環境例	
<u>インストールする</u>	
メール設定をする	11
自動アップデート	13
同期設定をする	14
移行する	15
マスター / スレーブ間同期	19
クラウドストレージ同期	25
外付けHDD同期	32
お使いの LAN DISK がダウンしたら	33
お使いの LAN DISK がダウンしたら ワークグループ環境でマスターがダウンした場合	
	34
ワークグループ環境でマスターがダウンした場合	34
ワークグループ環境でマスターがダウンした場合 Active Directory環境でマスターがダウンした場合	34 36 39
ワークグループ環境でマスターがダウンした場合 Active Directory環境でマスターがダウンした場合 スレーブがダウンした場合	34 36 39 40
ワークグループ環境でマスターがダウンした場合 Active Directory環境でマスターがダウンした場合 スレーブがダウンした場合 クラウドストレージからの復旧	34 36 39 40 43
ワークグループ環境でマスターがダウンした場合 Active Directory環境でマスターがダウンした場合 スレーブがダウンした場合 クラウドストレージからの復旧 外付けHDDからの復旧	34 36 39 40 43

クローン for Windowsとは

クローン for Windows (以下、クローン) は、LAN DISK上の共有フォルダーを他のLAN DISKやクラウドストレージ、外付けHDDに同期するためのツールです。

データ移行に対応

Windows Server 2012など、古いOSからのデータ移行に対応しています。 同期完了後に、新しいLAN DISK(スレーブ)を「マスターに昇格」 することで、データ 移行ができます。

対応OSなどの詳細は、下記弊社Webページをご確認ください。

https://www.iodata.jp/biz/cloneforwindows/

NAS 同期

- クローンでは、同期元LAN DISKを「マスター」、同期先LAN DISKを「スレーブ」と呼びます。
 - マスターの共有フォルダーを、スレーブの共有フォルダーに定期的に同期します。
- 設定したスケジュールにしたがって同期しますので、日中のアクセスが集中するタイミングは避け、夜間に同期するなど、業務に負担をかけないデータ同期を実現します。

レプリケーションとの違い

内容	クローン	レプリケーション
同期タイミング	設定したスケジュールにしたがって同期	データ変更があるとすぐに同期
データ保持	前回同期までのデータを保持	最新データを保持

スムーズな運用再開

- クローンは、共有フォルダー上のデータだけでなく、 「設定情報」も同期します。
- ●いざというときは、スレーブを「マスターに昇格」することで、設定情報を引き継いでスレーブがマスターとして振る舞います。

設定情報とは

- ●コンピューター名
- ドメイン名(ワークグループ)
- ●IPアドレス
- ●ユーザー、グループ、共有情報
- ●クローンのジョブ設定

クラウドストレージ連携

LAN DISKに直接襲いかかる災害に備え、Microsoft AzureやAmazon S3などのクラウドストレージにデータを同期できます。いざというときは、クラウドストレージからデータを復元できます。

外付け HDD 同期

LAN DISKに障害が発生したときに備え、外付けHDDにデータとネットワーク設定情報を同期できます。

いざというときは、外付けHDDからデータとネットワーク設定情報を復元できます。データを復元するのに容量に応じた時間が掛かりますが、低コストで備えることが可能です。 対応HDDは下記弊社Webページをご確認ください。

https://www.iodata.jp/pio/io/nas/landisk/hdd.htm

同期先と復元内容

クローンは、同期先により復元できる内容が異なります。

同期先	復元できる内容		
		コンピューター名	
	ネットワーク情報	ドメイン名(ワークグループ)	
		IPアドレス	
NIA O (7 I*)	ユーザー情報		
NAS(スレーブ)	グループ情報		
	共有情報	フォルダー	
	共有 ¹ 同報	ファイル	
	クローンのマスター / スレーブ間同期のジョブ設定		
クラウドストレージ	同期設定したフォルダー内のファイル		
		コンピューター名	
	ネットワーク情報	ドメイン名(ワークグループ)	
		IPアドレス	
	ユーザー情報		
外付けHDD	グループ情報		
	+ 方.桂.起	フォルダー	
	共有情報	ファイル	
	クローンのマスター / スレーブ間同期のジョブ設定		

[制限事項]

- ●世代管理はできません。(世代管理をおこなう場合は、世代管理が可能なバックアップソフトの併用を おすすめします。)
- ACL情報のコピーは、Active Directory 環境上のマスター / スレーブ間同期でのみ可能です。 ACL情報を含めた同期をおこなう際は、マスター・スレーブのルートフォルダーは、同じアクセス権 設定にしてください。
- ●同期データからファイル/フォルダー/ボリューム単位での復元はできません。
- ●システムファイルの同期はできません。システムファイル(フォルダー)は、同期時の対象数に含まれません。
- ●NTFSファイルシステムにより暗号化されたフォルダー/ファイルの同期はできません。
- ●NTFSファイルシステムにより圧縮されたフォルダー / ファイルは同期できますが、同期先では圧縮は外れます。
- ●共有フォルダーの引き継ぎはサーバー OSのみ対応しています。
- ●DNSは最大8個まで対応、NICは最大4個まで対応しています。



環境例	6
<u>インストールする</u>	9
メール設定をする	11
自動アップデート	13



動作環境

クローンは、そのLAN DISKの用途に合わせてインストールする必要があります。 お使いの環境をご確認の上、インストールするクローンの種類をお選びください。 詳細は、下記弊社Webページをご確認ください。

https://www.iodata.jp/biz/cloneforwindows/index.htm#clm05

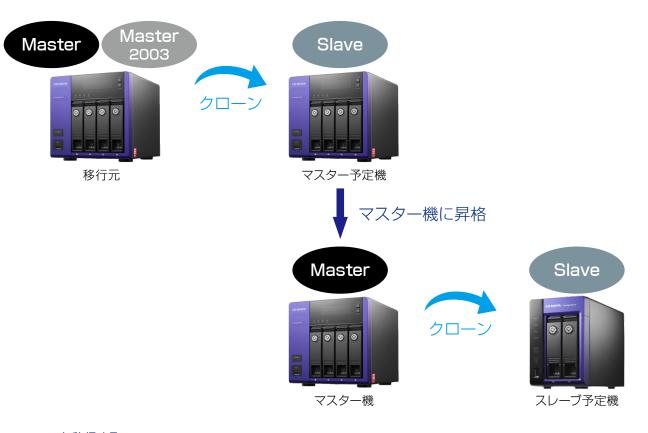
※Windows Server 2003から移行する場合は、専用のアプリ「Master 2003」をインストールしてください。 ※クライアントOSは共有フォルダーの引き継ぎには対応しておりません。

※OSのマイグレーション対応についても上記Webページをご参照ください。



古いOSからデータを移行し、マスター/スレーブの同期体制を整える

- ①移行元のNAS*などのデータを、マスター予定機(スレーブ) に同期
- ②旧機をネットワークから取り外す
- ③マスター予定機を[マスターに昇格]
- ④スレーブ予定機と同期



<u>▶</u>移行する

マスター / スレーブの同期体制を整える

マスター予定機からスレーブ予定機に同期

※VPN 経由で利用する場合は、充分なスループットを確保できる光回線をご使用ください。



▶マスター / スレーブ間同期





資料

スレーブ以外の同期体制を整える

マスター予定機から、クラウドストレージ(Microsoft Azure、Amazon S3) や 外付けHDDに同期



マスター予定機





Microsoft Azure Amazon S3







▶クラウドストレージ同期

25

▶外付けHDD同期

32

マスター/スレーブ+αの同期体制を整える

マスター/スレーブ同期体制に加えて、さらにクラウドストレージに同期

※クラウドストレージとの同期は、スレーブ側ですることをおすすめします。業務の負荷と同期負荷の分散を図ることができます。













Microsoft Azure Amazon S3

マスター予定機

スレーブ予定機

▶マスター / スレーブ間同期

19

▶クラウドストレージ同期 25



|インストールする

インストールの前にご確認ください

すでに弊社製バックアップソフト「Sync with Business Edition」をご使用の場合

すでに弊社製バックアップソフト「Sync with Business Edition」をご使用の場合は、 事前に削除してください。(以下の【クローンの削除方法】 の手順で削除できます。)

インストールするクローンは、マスターとスレーブで同じバージョンを使用する

マスター機とスレーブ機にインストールするクローンは、データ移行を除き、同じバージョンのものをご使用ください。

同じバージョンのクローンでないと、同期に失敗する場合があります。

自動アップデート機能を有効にすると、マスターのバージョンアップ時にスレーブもバージョンアップされます。(【自動アップデート】(13ページ))

クローンの削除方法について

クローンを削除するLAN DISKで[CloneMenu.exe] を起動し、ボタンをクリックして 画面の指示にしたがってください。(すでにクローンがインストールされている場合、ど のボタンをクリックしても削除をおこないます。)

- ※クローンがインストールされていない場合は、インストールされます。
- ※コントロールパネルの[プログラムのアンインストール]からでも削除できます。

クローンをバージョンアップする場合

クローンバージョン2.30より、バージョンアップの際に、古いバージョンのクローンを 削除する必要はありません。

※自動アップデート機能が追加になったことにより、新しいバージョンをアップデートインストールすることが可能になりました。



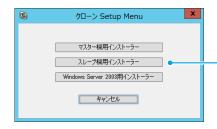
インストールする

※クローンのインストール時に、OSは再起動されません。

CloneMen u.exe

インストールするLAN DISKで[CloneMenu.exe] を起動する

2



用途に合ったボタンをクリックす る

以降は、画面の指示にしたがってインストールしてください。



メール設定をする

クローンが同期に失敗した時など、メールで通知することができます。

】 クローンを起動する ⇒ クローンマネージャーが開きます。

2



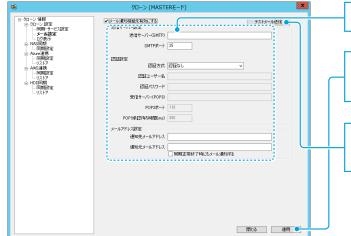
[メール設定] をクリック

3



[メール通知機能を有効にする] を チェック

4



- ① メールに関する設定を入力
- ② [適用] をクリック⇒設定が保存されます。
- ③[テストメール送信] をクリックし、メールが届くことを確認する

Gmail を利用する場合

次の設定をおこなってください。

● Gmail のアカウント設定 ※次の手順は2015 年6 月時点のものです。最新の各手順はGmail のヘルプをご覧ください。 次の設定 1 または 2 のどちらかを設定します。

・設定 1:[安全性の低いアプリの許可]を有効に設定

Google アカウントでログイン後、[アカウント情報] の[ログインとセキュリティ] から、[接続済みのアプリとサイト] の[安全性の低いアプリの許可] を有効にします。

- ・設定2:2段階認証プロセスを設定
- ※2段階認証プロセスを設定すると、他のGoogle アプリ用のパスワードの生成や設定など更に作業が必要になる場合があります。
- ①Googleアカウントでログイン後、[アカウント情報]の[Googleへのログイン]から、[パスワードとログイン方法]の[2 段階認証プロセス]を有効に設定します。
- ② Google アカウントでログイン後、[アカウント情報] の [Google へのログイン] から、[パスワード とログイン方法] の [アプリのパスワード] で、本製品用のパスワードを生成します。

●クローンのメール設定

送信サーバー(SMTP)	smtp.gmail.com
SMTPポート	587
認証方式	SMTP AUTH(通信路を暗号化する)
認証ユーザー名	Google アカウントのユーザー名
認証パスワード	Google アカウントのパスワード
	(2段階認証の場合、接続用に生成したパスワード)



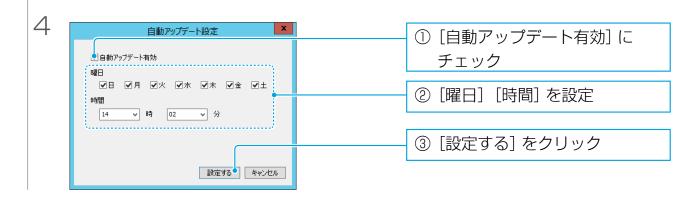
自動アップデート

新しいバージョンのクローンを確認し、自動でアップデートするように設定します。 自動アップデートをおこなうためには、マスター、スレーブともにインターネットに接続 されている必要があります。

】 マスターでクローンを起動する ⇒クローンマネージャーが開きます。



[同期・サービス設定] をクリック



これで設定は完了です。上記クローンマネージャーを閉じてください。 クローンマネージャーが開いたままだと自動アップデートは実行されません。 マスターが自動アップデート設定されていると、スレーブも自動アップデートされます。

スレーブでプロキシ設定をする場合

スレーブでクローンを起動し、[同期・サービス設定] をクリックして表示される画面で設定してください。



同期設定をする

同期の前にご確認ください

●同期先のスレーブ機、クラウドストレージ、外付けHDDの各フォルダー内にあるデータは、クローンから同期を実行すると削除されます。必要なデータは事前にバックアップしておいてください。

移行する	<u> </u>
マスター / スレーブ間同期	19
クラウドストレージ同期	25
外付けHDD同期	32

同期時の制限

- クローン元またはクローン先のボリューム容量は32TBまで対応しています。32TBを超える場合は 非対応です。
- ●登録できる最大ジョブ数は、15個までです。
- 1 ジョブ当たり同期可能な最大ファイル数は、64bit 時は480万ファイル、32bit 時は 15 万ファイルまでです。(フォルダーを含む)
- ●同期スケジュールは夜間など、同期元で他のアプリが動作していない時間帯に設定してください。

増分同期とフル同期の違いについて

- 増分同期…前回の同期から変更があったファイルやフォルダーのみを同期します。
- ●フル同期…同じファイルやフォルダーがあってもすべて上書きして同期します。

VSS(ボリューム・シャドウコピー・サービス)

通常ロックされている(編集中など) ファイルをコピーはできませんが、VSS機能を利用すると、その「スナップショット(現在の状態)」を作成し、ロック中のファイルも含めてコピーを完了することができます。

※同期設定のオプション設定は、[同期・サービス設定]でおこなえます。<u>【同期・サービス設定】(47ページ)</u>をご覧ください。

移行する

新しいLAN DISK Zシリーズに移行する際の手順を説明します。

※移行元の対応OSについては下記弊社Webページをご参照ください。 https://www.iodata.jp/biz/cloneforwindows/

同期先設定時のご注意

マスターとスレーブは1台ずつでの同期設定でお使いください。

複数のマスターから同一のスレーブに同期設定をしてしまうと、同期データが上書きされてしまいます。











Active Directory 環境で、ACL 情報も同期する場合

ACL情報のコピーは、Active Directory環境上のマスター / スレーブ間同期でのみ可能です。 事前に以下の設定をおこなってください。

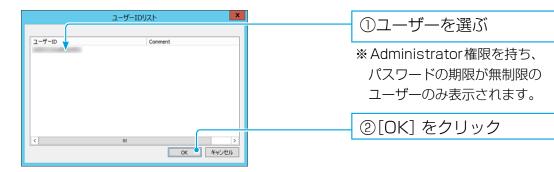
スレーブでクローンを起動する

2 y 環境で ACL同期を行えるよどに、同期用共有フォルダーに対してアクセス権を設定します。 アクセス権を設定する ユーザーID を入力し「適用」をクリックしてください。 クリック

①[ACL同期補助]を

②[ユーザー IDリスト]を クリック

3



4



これでスレーブ側の設定は完了です。次ページ以降の手順にしたがってください。

導入の前に次の設定を決め、メモする

※マスター/スレーブ間同期は必ず1対1の構成としてください。

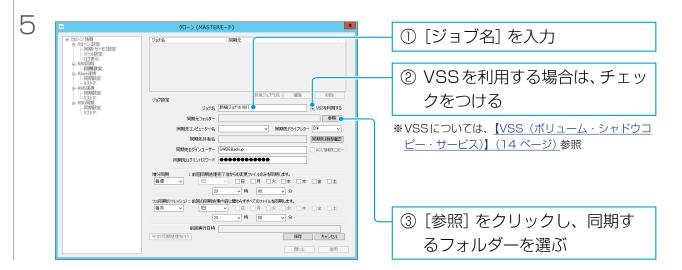
項目		マスター	スレーブ
コンピューター名			
IPアドレス			
共有フォルダー	共有名		
	パス		

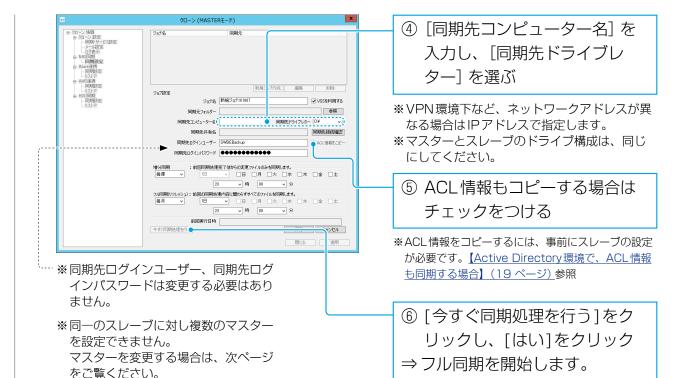
クローンを実行する前に

マスターとスレーブのドライブ構成は同じ構成にしてください。

2 移行元のマスター機でクローンを起動する







同期されないファイル

次のファイルは、同期されません。

- ・システムファイル、システムフォルダー
- ・ユーザー「SYSTEM」にアクセス権限が無いファイル

フル同期が完了したら次ページへお進みください。

スレーブへの設定反映について

クローン同期時にマスターの設定情報がスレーブに保存されますが、スレーブ側の設定は変更されません。スレーブの[マスターに昇格]時に反映されます。

データ転送速度の目安

10GB (ファイル数50,000) のデータで、約90分かかります。

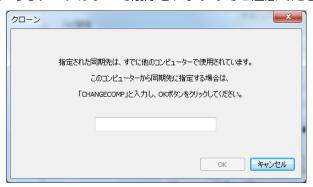
ACL情報もコピーした場合は、約100分かかります。

※ファイル数やサイズなどによってもかかる時間は変わります。

同期元を変更する場合

すでに設定されている同期先を指定した場合は、以下の画面が表示されます。

画面の指示にしたがって同期元を変更することはできますが、次回フル同期がおこなわれ、現在同期先にあるデータはすべて削除されますのでご注意ください。





移行操作をおこなう(この手順で移行先をスレーブ機からマスター機にします)

- フル同期が完了したら、旧機をシャットダウンしネットワークから取り外す
- 2 移行先のスレーブ機でクローンを起動する

4 ① 設定情報を確認する 設定取得日時: 2016/10/07 14:31:42 ② 各LANポートに反映される ネットワーク設定1 アダプタ名: Intel(R) 825741 Girabit Network Cor ネットワーク設定を確認する ネットワーク映定: [192.168.215.11]Inte(R) 82574L Gigabit Netw アダプタ名: Intel(R) 82579LM Gigabit Network Connection ネットワーク設定: [192.188.215.2]InteK(R) 82579LM Gigabit Network C ③「マスターに昇格」をクリック ⇒スレーブ機にマスター機の設定 がされ、マスター機になります。 クローンもマスター機用に変わ マスターに昇格 閉じる 通用 ります。

- ※ Active Directory 環境でローカルユーザーが作成されている場合、パスワード設定画面が表示されますので、ここでパスワードを設定してください。このユーザーの手順5の設定は不要です。パスワード設定をキャンセルした場合は、このユーザーは移行されません。
- 5 ユーザーのパスワードがユーザー名と同じになっているので、設定し直す
 - ※日本語ユーザー名をご利用の場合は、必ず管理者権限でパスワードをリセットしてください。
 - ※ [ACL情報もコピー] を指定した場合のアクセス権設定は、コピーしたACLに上位フォルダーから 継承された権限が加えられます。(Everyone (フルコントロール)、Users (フルコントロール)) そのためマスターに昇格後は、アクセス権設定をご確認のうえ、不要な権限を削除してください。
 - ※ すでに同一ユーザーが登録されている場合、パスワードは変更されません。
- 6 共有のアクセス権がリセットされているので、設定し直す

これで移行は完了です。

【マスター / スレーブ間同期

同期設定は、マスターのクローンを操作します。

同期先設定時のご注意

マスターとスレーブは1台ずつでの同期設定でお使いください。 複数のマスターから同一のスレーブに同期設定をしてしまうと、同期データが上書きされてしまいます。









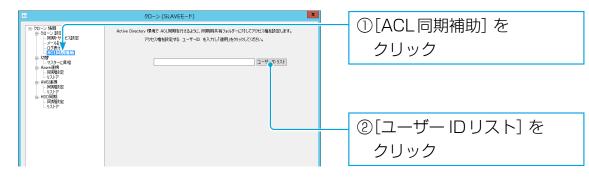


Active Directory 環境で、ACL 情報も同期する場合

ACL情報のコピーは、ActiveDirectory環境上のマスター / スレーブ間同期でのみ可能です。 事前に以下の設定をおこなってください。

】 スレーブでクローンを起動する

2



3



4



これでスレーブ側の設定は完了です。次ページ以降の手順にしたがってください。

導入の前に次の設定を決め、メモする

※マスター/スレーブ間同期は必ず1対1の構成としてください。

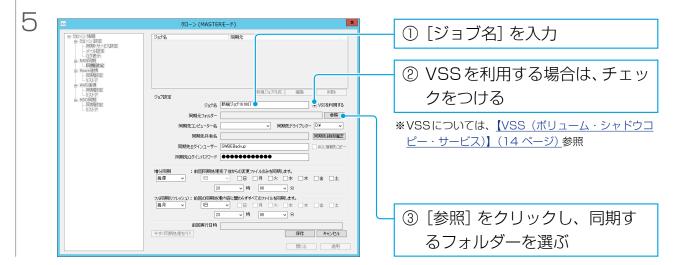
項目		マスター	スレーブ
コンピューター名			
IPアドレス			
共有フォルダー	共有名		
	パス		

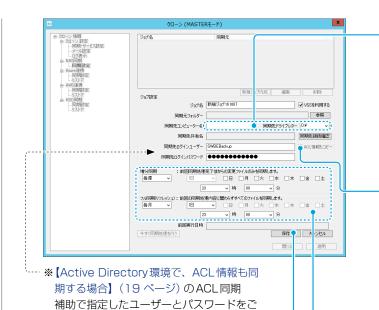
クローンを実行する前に

マスターとスレーブのドライブ構成は同じ構成にしてください。

2 クローンを起動する







- ④ [同期先コンピューター名] を 入力し、[同期先ドライブレ ター] を選ぶ
- ※VPN環境下など、ネットワークアドレスが異なる場合はIPアドレスで指定します。
- ※マスターとスレーブのドライブ構成は、同じにしてください。
 - ⑤ ACL情報もコピーする場合は チェックをつける
- ※ACL情報をコピーするには、事前にスレーブの設定 が必要です。【Active Directory環境で、ACL情報 も同期する場合】(19 ページ)参照
- ⑥ スケジュールを設定する

毎週 複数の曜日とひとつの時刻を設定 毎月 ひとつの日にちとひとつの時刻を設定

⑦ [保存] をクリック ⇒ジョブが追加されます。

同期されないファイル

利用ください。

定できません。

覧ください。

次のファイルは、同期されません。

※同一のスレーブに対し複数のマスターを設

マスターを変更する場合は、次ページをご

- ・システムファイル、システムフォルダー
- ・ユーザー「SYSTEM」にアクセス権限が無いファイル

これで同期ジョブが登録されました。

スレーブへの設定反映について

クローン同期時にマスターの設定情報がスレーブに保存されますが、スレーブ側の設定は変更されません。スレーブの[マスターに昇格]時に反映されます。

データ転送速度の目安

10GB (ファイル数50,000) のデータで、約90分かかります。

ACL情報もコピーした場合は、約100分かかります。

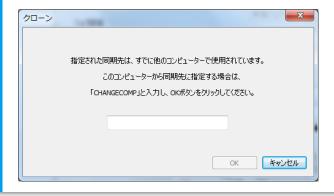
※ファイル数やサイズなどによってもかかる時間は変わります。



同期元を変更する場合

すでに設定されている同期先を指定した場合は、以下の画面が表示されます。

画面の指示にしたがって同期元を変更することはできますが、次回フル同期がおこなわれ、現在同期先にあるデータはすべて削除されますのでご注意ください。





切替テスト

マスターがダウンしたことを想定し、スレーブの「マスターに昇格」後運用可能かをテストします。実運用前に必要に応じておこなってください。

マスター機の操作

- マスターに適当なテストファイルを作成し、作成したジョブを使用して[今すぐ同期 処理を行う]を実行する
 - ※【マスター/スレーブ間同期】 (19ページ) 参照
- 同期完了後、マスターの電源を切り、マスターをネットワークから取り外す ※ネットワークから切り離した後は、マスターの操作はありません。

スレーブ機の操作

3 クローンを起動する

※ ActiveDirectory環境でローカルユーザーが作成されている場合、パスワード設定画面が表示されますので、ここでパスワードを設定してください。 パスワード設定をキャンセルした場合は、このユーザーは移行されません。



Active Directory 環境でご利用の場合

【Active Directory環境でマスターがダウンした場合】(36 ページ) をご覧ください。

○ 同期したデータにアクセス可能であることを確認する

確認後の再設定(マスターに昇格したLAN DISKをスレーブに戻す)

- 7 マスターに昇格したLAN DISKのクローンを削除する **【インストールする】(9ページ)参照
- 8 IPアドレス、コンピューター名をスレーブの設定に戻す ※【マスター/スレーブ間同期】(19ページ) の手順1参照
- 9 スレーブ用のクローンを再インストールする *【インストールする】(9ページ)参照
- 10 マスターをネットワークにつなぎ、電源を入れる

【クラウドストレージ同期

マスター/スレーブのどちら側のクローンでも設定できます。

マスター/スレーブ環境において、マスターでクラウドストレージ同期を行う場合は負荷軽減のためスケジュールをずらして設定してください。

例えば、夜間にマスターからスレーブに同期し、その後にスレーブからクラウドストレージに同期します。こうすることで、業務内でもマスターに負荷をかけずに同期できます。

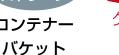
同期先設定時のご注意

同期元とコンテナー / バケットは 1 対 1 での同期設定でお使いください。 複数の同期元から同一のコンテナー / バケットに同期設定をしてしまうと、同期データが上書きされて しまいます。













同期先に自動作成されるファイルは、削除しないでください

[CloneForWindows] フォルダーに [f003ef6bb89b.UUID.Check] が自動で作成されます。 このファイルは、クローンで同期元識別に使用する必要なファイルですので削除しないでください。

Microsoft Azure と同期する

Microsoft Azure とは

Microsoft Azure は、Microsoft が提供するクラウドサービスです。

その内の 1 つのクラウドストレージサービスである Blob Storage ではコンテナーと呼ばれる領域に、 簡単にファイルの格納や、取得をすることができます。

Microsoft Azureに関する詳細は、Microsoft Azureのホームページをご覧ください。

→ https://azure.microsoft.com/

Microsoft Azure への同期に関する注意

- ●アップロード可能なファイルは、1ファイル200GBまでです。
- Microsoft Azure 上の Blob はブロック Blob のみが同期対象となり、ページ Blob は同期対象外となります。
- ●Microsoft AzureのBlob Storageは保存容量・通信量に応じて課金されます。 頻繁に更新されるデータがある場合、請求額が大きくなる場合があります。

Microsoft Azureご契約サイトなどで料金を確認しながら運用されることを推奨します。

- ●プロキシをお使いの場合は、【同期・サービス設定】(47ページ)でプロキシの設定をしてください。
- Microsoft Azure 同期の設定は、マスター/スレーブ間で共有されません。 スレーブをマスターに切り替えた場合、新しいスレーブに Microsoft Azure 同期の設定をし、マスター (元スレーブ) から Microsoft Azure 同期の設定を削除することをおすすめします。

Microsoft Azure の設定を確認する

事前に、Microsoft Azure (https://azure.microsoft.com/) にアクセスし、Microsoftアカウントを作成してください。

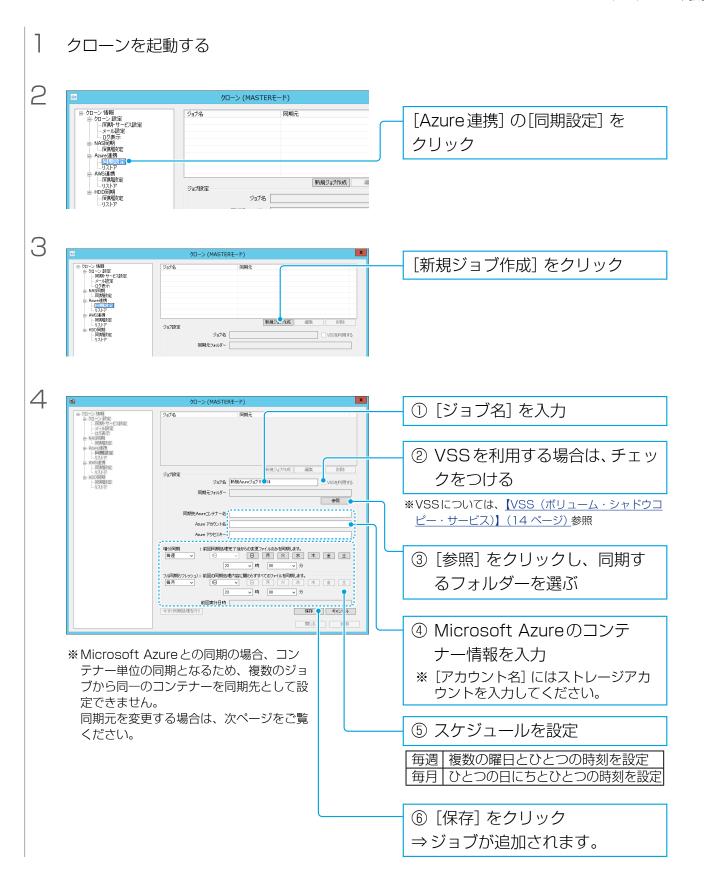
Microsoft アカウント作成後、さらにストレージアカウントやコンテナーを作成、およびプライマリアクセスキーを確認し、以下をメモしてください。

- ・コンテナー名 ・ストレージアカウント名 ・ストレージアカウントのプライマリアクセスキー
- ※ストレージアカウントは、Microsoftアカウントでサインイン後、Microsoft Azureホームページ画面左下の「新規」の「データサービス」の「ストレージ」の「簡易作成」から作成します。
- ※ コンテナーは、上記で作成したストレージアカウントをクリックし、Microsoft Azure ホームページ 画面上の「コンテナー」の「追加」から作成します。

コンテナーの「アクセス」方法は、任意にお選びください。

- ※プライマリアクセスキーは、上記で作成したストレージアカウントをクリックし、Microsoft Azure ホームページ画面下の「アクセスキーの管理 | から確認します。
- ※ Microsoft Azure についての不明点、通信料金、規約については、Microsoft Azureのホームページにてご確認ください。





これで同期ジョブが登録されました。

同期元を変更する場合

すでに設定されている同期先を指定した場合は、以下の画面が表示されます。

画面の指示にしたがって同期元を変更することはできますが、次回フル同期がおこなわれ、現在同期先にあるデータはすべて削除されますのでご注意ください。





Amazon S3 と同期する

Amazon S3 とは

Amazon S3は、Amazonが提供するクラウドサービスです。

バケットと呼ばれるプライベートな領域に、簡単にファイルの格納や、取得をすることができます。

Amazon S3に関する詳細は、次のホームページをご覧ください。

→ https://aws.amazon.com/jp/s3/

Amazon S3 への同期に関する注意

- ●アップロード可能なファイルは、1ファイル5GBまでです。
- Amazon S3上のGlacierストレージクラスには対応しておりません。
- Amazon S3 は保存容量・通信量に応じて課金されます。頻繁に更新されるデータがある場合、請求額が大きくなる場合があります。 Amazon S3 ご契約サイトなどで料金を確認しながら運用されることを推奨します。
- ●プロキシをお使いの場合は、【同期・サービス設定】(47ページ)でプロキシの設定をしてください。
- Amazon S3同期の設定は、マスター/スレーブ間で共有されません。 スレーブをマスターに切り替えた場合、新しいスレーブに Amazon S3同期の設定をし、マスター(元スレーブ)から Amazon S3同期の設定を削除することをおすすめします。
- ●AWS互換サービスに対応しております。

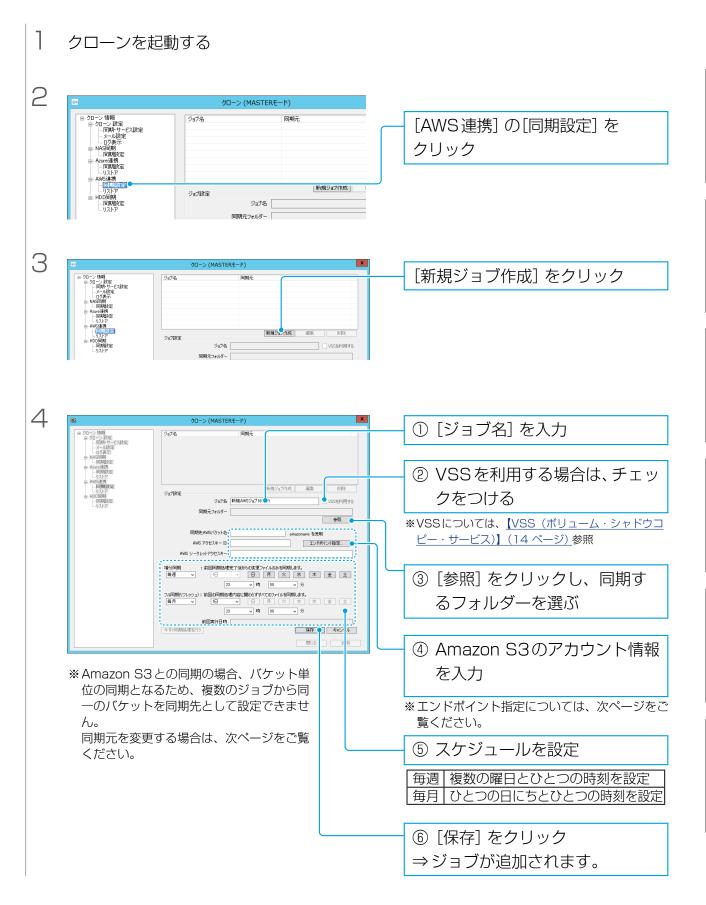
Amazon S3 の設定を確認する

事前にAmazon S3 (https://aws.amazon.com/jp/s3/) にアクセスし、AWSアカウントを作成してください。

アカウント作成後、そのアカウントにてバケットおよびアクセスキーを作成し、以下をメモしてください。

- ・バケット名
- ・作成したアカウントのアクセスキー ID
- ・シークレットキー
- ※ バケット名は、3 文字以上63 文字以内で作成してください。
- ※アクセスキーは、「セキュリティ証明書」 または「Security Credentials」 から作成します。
- ※ アクセスキー ID とシークレットキーについては、そのアカウントでのサインアップ後、Amazon S3 ホームページ画面右上の[アカウント/コンソール]の[セキュリティ証明書]を開いた先の[アクセス証明書]の[アクセスキー]タブをご参照ください。
- ※ Amazon S3 についての不明点、通信料金、規約については、Amazon S3 のホームページにてご確認ください。



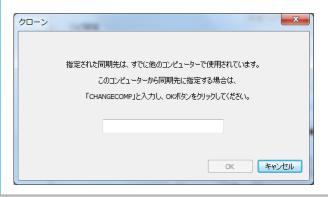


これで同期ジョブが登録されました。

同期元を変更する場合

すでに設定されている同期先を指定した場合は、以下の画面が表示されます。

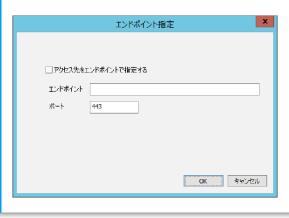
画面の指示にしたがって同期元を変更することはできますが、次回フル同期がおこなわれ、現在同期先にあるデータはすべて削除されますのでご注意ください。



エンドポイント指定

AWS互換サービスを使用する場合、[エンドポイント指定]で設定します。

[エンドポイント]と[ポート]を入力し、[アクセス先をエンドポイントで指定する]にチェックをつけます。

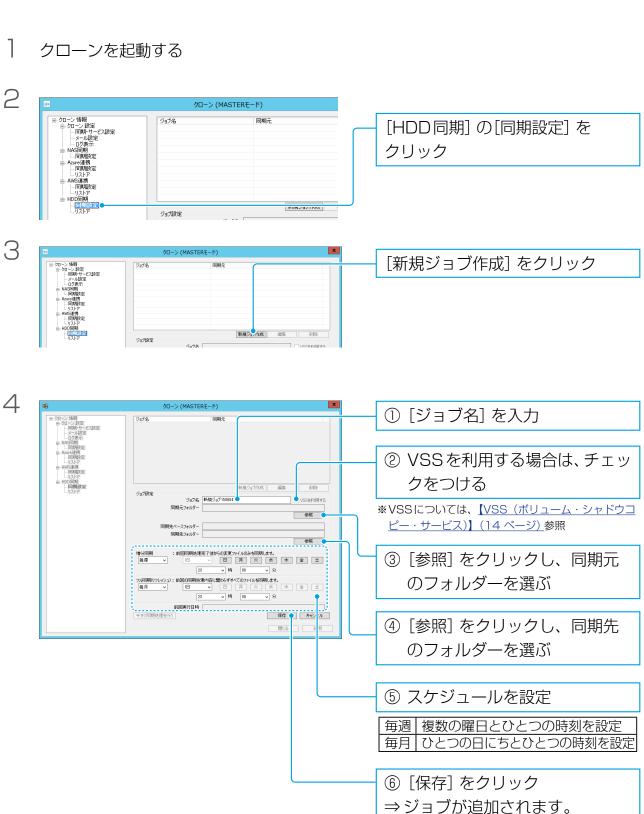




■外付け HDD 同期

マスター/スレーブのどちら側でも設定できます。事前に同期するLAN DISKに外付け HDDを接続してください。

ネットワーク設定を含む同期をする場合は、マスターにつないでください。



これで同期ジョブが登録されました。

クローンとは

導入する

||期設定をする

ノウンしたら

お使いのLAN DISKがダウンしたら

<u>ワーククループ環境でマ人ターがタウンした場合</u>	34
Active Directory環境でマスターがダウンした場合	36
スレーブがダウンした場合	39
クラウドストレージからの復旧	40
外付けHDDからの復旧	43

クローンはシステムの初期化には対応しておりません。

LAN DISKのシステムの初期化方法は、管理マニュアルをご確認ください。

フークグループ環境でマスターがダウンした場合

マスター機がダウンした場合、スレーブ機を「マスターに昇格」して対応します。

[マスターに昇格] を実行する前に

マスターとスレーブのドライブ構成をあわせてから実行してください。

マスター機の操作

マスター機の電源が入っている場合はシャットダウンし、ネットワークから取り外す ※修理の必要がある場合は、マスター機を修理に出します。

スレーブ機の操作(この手順でマスター機になります)

2 クローンを起動する

| To | Stave | T

- 5 ユーザーのパスワードがユーザー名と同じになっているので、設定し直す ※日本語ユーザー名をご利用の場合は、必ず管理者権限でパスワードをリセットしてください。 ※すでに同一ユーザーが登録されている場合、パスワードは変更されません。
- 6 共有のアクセス権がリセットされているので、設定し直す

旧マスター機の操作(この手順によりスレーブ機になります)

- 7 旧マスター機の修理が終わったり、スペアのLAN DISKがある場合は、それらの設定をスレーブ機のものにする
 - ※【マスター/スレーブ間同期】 (19ページ) の手順1参照
- 8 クローンのスレーブ版をインストールする
- 9 ネットワークにつなぐ
 - ※次の同期時刻まで時間がある場合は、マスター機で手動フル同期をすることをおすすめします。 ([今すぐ同期処理を行う]をクリック)

これで復旧は完了です。

マスター機にインストールしていたソフトウェアについて

復元前にマスター機にインストールされていたソフトウェア(UP管理ソフト、セキュリティソフト等)は復元されませんので、必要に応じて再インストールしてください。

クラウドストレージや外付け HDD に設定していたジョブについて

スレーブ時点で設定したクラウドストレージや外付けHDDのジョブは、[マスターに昇格]時に削除されます。必要に応じで設定し直してください。



Active Directory 環境でマスターがダウンした場合

Active Directory環境でマスター機がダウンした場合、スレーブ機を「マスターに昇格」 して対応します。

Active Directory 環境でご利用の場合

- ●スレーブをマスターに昇格させる際、再起動が3回必要です。これはスレーブのマスター昇格の際 DNSを書き換える必要があるためです。
- [ACL情報もコピー] を指定した場合のアクセス権設定は、コピーしたACLに上位フォルダーから継承された権限が加えられます。(Everyone (フルコントロール)、Users (フルコントロール)) そのためマスターに昇格後は、アクセス権設定をご確認のうえ、不要な権限を削除してください。

マスター機の操作

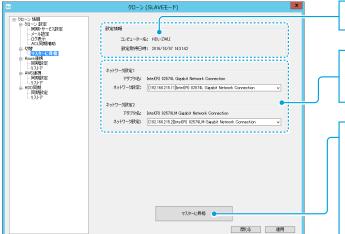
マスター機の電源が入っている場合はシャットダウンし、ネットワークから取り外す ※修理の必要がある場合は、マスター機を修理に出します。

スレーブ機の操作(この手順でマスター機になります)

2 クローンを起動する

| Display | Di

4



- ① 設定情報を確認する
- ② 各LANポートに反映される ネットワーク設定を確認する
- ③ [マスターに昇格] をクリック⇒スレーブ機にマスター機の設定がされ、マスター機になります。クローンもマスター機用に変わります。
- ※ ActiveDirectory 環境でローカルユーザーが作成されている場合、パスワード設定画面が表示されますので、ここでパスワードを設定してください。

パスワード設定をキャンセルした場合は、このユーザーは移行されません。



5 再起動を求められたら、再起動する

名/パスワードを入力します。

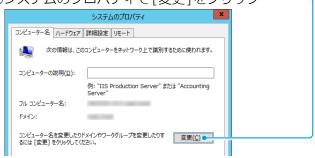
- 再起動したら、新マスター機(元スレーブ機)にログオンする※出荷時設定のユーザー名/パスワードでログオンできない場合は、マスターに設定したユーザー
- 7 新マスター機をいったんワークグループに設定する

ドメインの設定方法

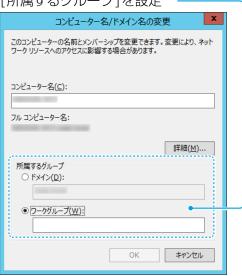
- ①[サーバーマネージャー]の[ダッシュボード]→[ローカルサーバー]を開く
- ②ドメイン横の項目をクリック



③システムのプロパティで[変更]をクリック



④[所属するグループ]を設定



8 新マスター機を再起動する

- 9 新マスター機を再度 Active Directory に設定し直す ※上記【ドメインの設定方法】をご確認ください。
- 10 新マスター機を再起動する

※ このあと、<u>35ページ</u>の手順7以降を参照ください。

旧マスター機を修理後、スレーブ機として再利用する場合

いったんワークグループに設定し、コンピューター名等を変更してから、Active Directoryに設定し直してください。(上記【ドメインの設定方法】を参照)



スレーブがダウンした場合

スレーブ機がダウンした場合、スレーブ機を取り外して対処します。

スレーブ機の操作

スレーブ機の電源が入っている場合はシャットダウンし、ネットワークから取り外す ※修理の必要がある場合は、スレーブ機を修理に出します。

スレーブ機の修理が終わったら…

- 2 スレーブ機の修理が終わったり、スペアのLAN DISKがある場合は、それらの設定をスレーブ機のものにする
 - ※【マスター/スレーブ間同期】 (19ページ) の手順1参照
- 3 クローンのスレーブ版をインストールする
- 4 ネットワークにつなぐ

これで復旧は完了です。

※修理後初回の同期は[フル同期]を実行してください。

【クラウドストレージからの復旧

マスター/スレーブともダウンしてしまった場合など、クラウドストレージに同期したデータから復旧できます。

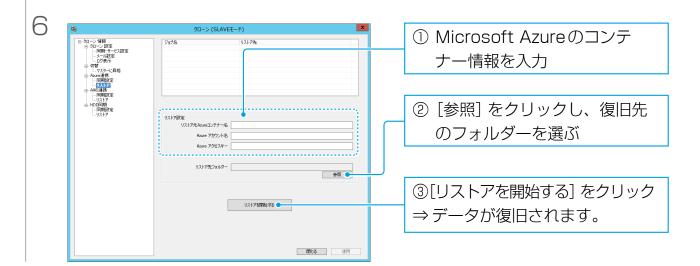
すでにリストア先フォルダーにあるファイルについて

クラウドストレージから復旧する場合、指定したフォルダーへの同期されていたファイルの復元のみを おこないます。このため、リストア前にリストア先のフォルダーにファイルが存在しても削除されません。 ただし、同名ファイルは上書きされます。

Microsoft Azure から復旧する

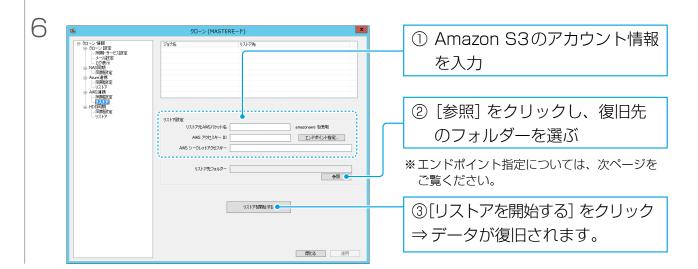
- 】 LAN DISKの修理が終わったり、スペアのLAN DISKがある場合は、それらの設定をマスター機のものにする
 - ※【マスター / スレーブ間同期】 (19ページ) の手順 1 参照
 - ※ユーザー、グループも設定しなおしてください。
- 2 マスター機用クローンをインストールする
- 3 ネットワークにつなぐ
- 4 クローンを起動する





Amazon S3 から復旧する

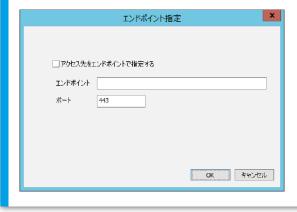
- LAN DISKの修理が終わったり、スペアのLAN DISKがある場合は、それらの設定をマスター機のものにする
 - ※【マスター/スレーブ間同期】 (19ページ) の手順1参照
 - ※ユーザー、グループも設定しなおしてください。
- 2 マスター機用クローンをインストールする
- 3 ネットワークにつなぐ
- 4 クローンを起動する





エンドポイント指定

AWS 互換サービスを使用する場合、[エンドポイント指定]で設定します。 [エンドポイント]と[ポート]を入力し、[アクセス先をエンドポイントで指定する]にチェックをつけます。



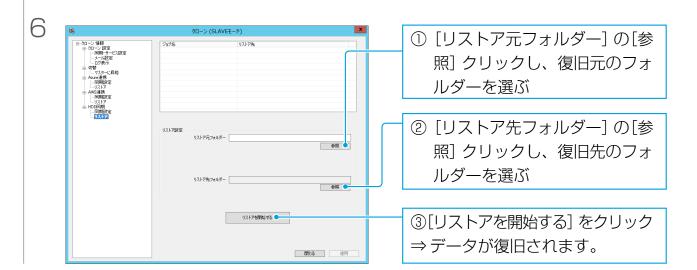
M付け HDD からの復旧

マスター/スレーブともダウンしてしまった場合など、外付けHDDに同期したデータから復旧できます。

外付け HDD から復旧する

- 】 LAN DISKの修理が終わったり、スペアのLAN DISKがある場合は、それらの設定をマスター機のものにする
 - ※【マスター/スレーブ間同期】 (19ページ) の手順1参照
 - ※ユーザー、グループも設定しなおしてください。
- 2 マスター機用クローンをインストールする
- 3 同期した外付けHDDをつなぐ
- 4 クローンを起動する





[OK] をクリック



リストア先に指定したフォルダー以下を全消去した後、リストアを開始します。

[リストア後、ネットワーク情報を復元する]にチェックをつけると

リストア後、同期されているネットワーク情報を復元します。

●復元されるネットワーク情報

コンピューター名

ドメイン名(またはワークグループ)

IPアドレス

ユーザー情報

グループ情報

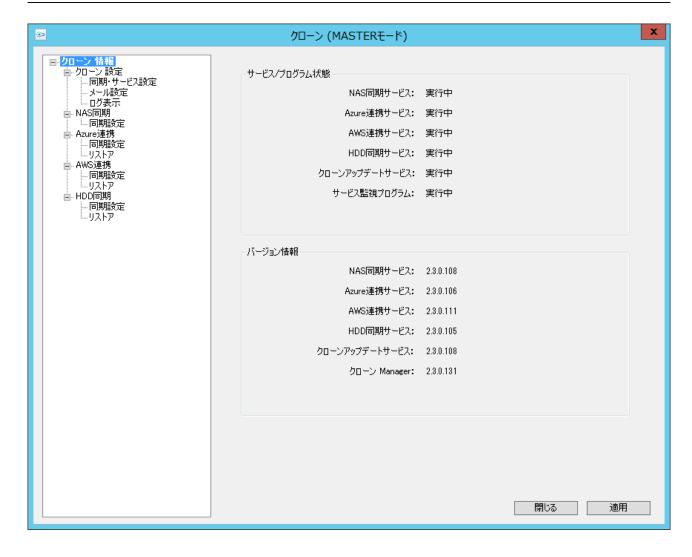
共有フォルダー情報

SyncwithBEManager × IJストアが正常に終了しました。 [OK] をクリック

ソフトウェア詳細	46
ログ表示	60

【ソフトウェア詳細

クローン 情報



15ロク	≡×⊓□			クローン	/
項目名	説明		М	M2003	S
サービス/プログラム 状態	サービスの状態を表示しま スレーブは NAS 同期サー 実行中 停止 一時停止 開始中 停止中 一時停止中 再開中 取得失敗	だす。 ビスは[停止中]と表示されますが、問題はありません。 サービスが実行中 停止状態 一時停止状態 開始途中 停止途中 一時停止途中 一時停止から復帰中 サービス情報が取得できなかった (サービスがインストールされてない等)	0	*	0
バージョン 情報	クローンのバージョンを表	示します。	0	0	0

M:マスター機用/M2003:Windows Server 2003用/S:スレーブ機用

※Master2003は、クラウドストレージ同期サービスに対応しておりません。



同期・サービス設定

<u></u>	クローン (MASTERモード)	х
□ クローン 情報 □ クロークロー 設定 □ リル・サービス設定 □ リル・カー と	クローン (MASTERモード) クローン設定 ② 起動時に経過済みスケジュールを実行する ② 全ての同期失敗ファイルをログに残す □ 同期に成功したファイルもログに残す ② 同期処理を低優先度で実行する プロキシ設定 □ プロキシ サーバーを使用する アドレス ポート 自動アップデート設定 更新情報確認	
	閉じる	適用

百日夕	項目名 説明		クローン	/
	成·四	М	M2003	S
クローン 設定	クローンの動作を設定します。 変更の反映には、Windowsの再起動が必要です。	0	0	0
起動時に経過済 みスケジュール を実行する	チェックすると、クローン起動時に、実施予定時刻を経過しているスケジュールを実行します。	0	0	0
全ての同期失敗 ファイルを ログに残す	チェックすると、同期に失敗したファイルを、すべてログに記録します。 ※同期に成功したファイルもログに残す: 同期に成功したファイルについても、ログに記録します。	0	0	0
	チェックすると、CPU優先度を低優先度で同期処理します。 (チェックを外すと、通常優先度で同期処理します。)	0	0	0
プロキシ設定	チェックすると、Azure/AWS同期/リストア、クローンのアップデート 時の接続にプロキシサーバーを使います。 アドレスとポートについては、ネットワーク管理者にご確認ください。	0	0	0
自動アップデート設定	クローンの自動アップデートの設定をおこないます。スレーブは、マスターの自動アップデートが有効になっている場合に、自動アップデート されます。	0	0	_
更新情報確認	手動でクローンのアップデートをおこないます。	0	0	0

M:マスター機用/M2003:Windows Server 2003用/S:スレーブ機用



メール設定

	クローン (MAST	ERモード)	X
□ クローン 情報 □ クローン 設定 □ 月明・サービス設定 □ 月明・サービス設定 □ 7-ル設定 □ 7表示 □ NAS同期 □ 1 同期設定	□ メール通知機能を有効にする ・送信サーバー設定 送信サーバー(SMTP) SMTPポート		テストメール送信
	認証設定 認証方式 認証ユーザー名 認証パスワード 受信サーバー(POP3) POP3ポート	記証なし In the state of the st	
			閉じる 適用

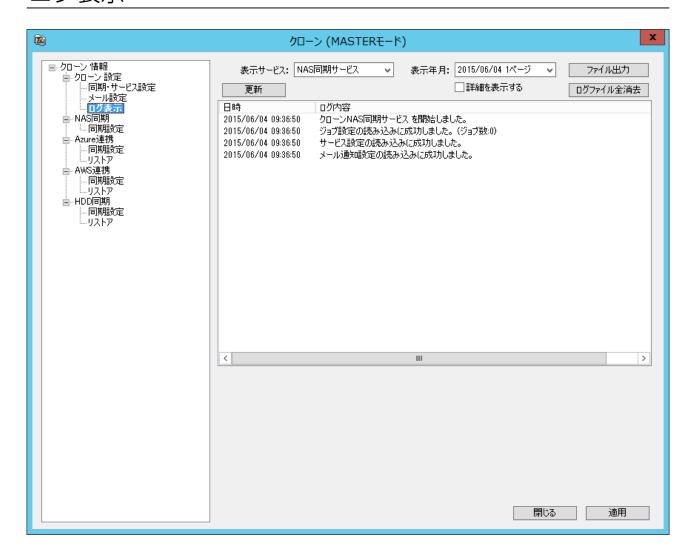
	EMOR		クローン	/
項目名	説明 	М	M2003	S
メール通知機能を 有効にする	チェックすると、イベント発生時にメール通知するようになります。	0	0	0
テストメール送信	設定した内容でテストメールを送信します。	0	0	0
送信サーバー設定	送信サーバーに関する設定をします。	0	0	0
認証設定	認証に関する設定をします。	0	0	0
メールアドレス設定	通知するメールアドレスと、その際に送信元となるメールアドレスを設定します。 ※同期正常終了時にもメール通知する: 同期が正常に終了した場合にもメールで通知します。	0	0	0

M:マスター機用/M2003:Windows Server 2003用/S:スレーブ機用

▶メール設定をする



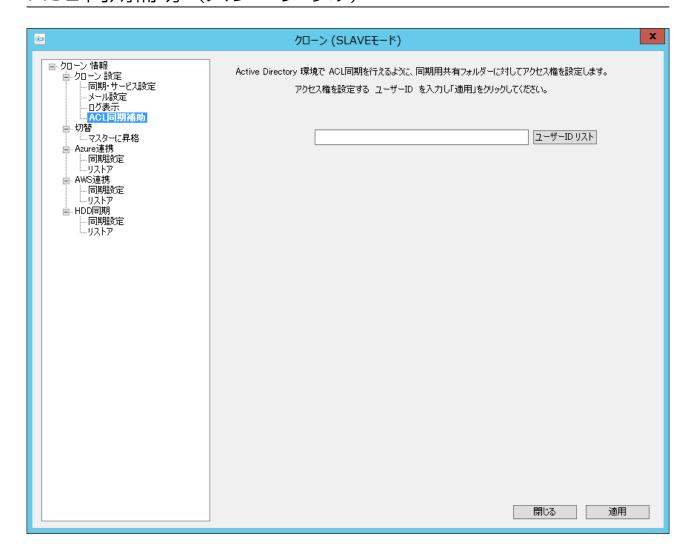
ログ表示



項目名 説明		クローン			
- リロイ 	就明	М	M2003	S	
表示サービス	マスター / スレーブ同期と Azure 同期のログ表示を 切り替えます。	0	0	0	
表示年月	ログ表示する日付を切り替えます。	0	0	0	
ファイル出力	タブ区切りテキストファイルで、ログを出力します。	0	0	0	
更新	ログの内容を更新します。	0	0	0	
詳細を表示する	各同期の成功・失敗ファイル一覧を表示します。	0	0	0	
ログ全消去	口グをすべて削除します。	0	0	0	
一覧	ログを一覧表示します。ログファイルは31日間保存されます。 ※ログの内容については、 <u>【ログ表示】(60ページ)</u> をご覧ください。	0	0	0	

M:マスター機用/M2003:Windows Server 2003用/S:スレーブ機用

ACL 同期補助(スレーブのみ)



項目名	万口 <i>有</i>		クローン	/
- 块日 石	説明 	М	M2003	S
ユーザー ID リスト	ACL 同期設定が可能なユーザーを選びます。 ユーザーを指定すると、NAS 同期の [ACL 情報もコピー] にチェック可能になります。 Administrator 権限を持ち、パスワード期限が無制限のユーザーのみ表示されます。	_		0

M:マスター機用/M2003:Windows Server 2003用/S:スレーブ機用



NAS 同期 - 同期設定(マスターのみ)

<u> </u>	クローン (MASTERモード)	x
□-クローン 情報 □-クローン 計算 □-クローン 設定 □	ジョブ名 同期元	
In JARP In	同期元フォルダー	明先接続確認 CL情報もコピー

	=H□□	クローン		/
項目名	説明 	М	M2003	S
ジョブ名・同期元	作成した同期一覧を表示します。	0	0	0*2
新規ジョブ作成	ジョブを新規作成し、設定します。	0	0	0*2
編集	選んだジョブを編集します。	0	0	0*2
削除	選んだジョブを削除します。	0	0	0*2
ジョブ名	ジョブの名前を設定します。	0	0	0*2
VSSを利用する	チェックをつけると、同期開始時にVSSスナップショットをおこない、 同期にVSSスナップショットを使用します。	0	0	0*2
同期元フォルダー	マスターの同期する共有フォルダーを設定します。	0	0	0*2
同期先 コンピューター名	スレーブのコンピューター名を入力します。	0	0	O**2
同期先フォルダー	スレーブの保存先が表示されます。(自動入力)	0	0	0*2
同期先ログインユー ザー	スレーブのログインに使用するユーザー名を入力します。	0	0	O**2
ACL情報もコピー	チェックをつけると、ACL情報の同期もおこないます。 スレーブのクローンのACL補助設定(【ACL同期補助(スレーブのみ)】 (50ページ))で、ACL同期に使用するIDが設定されている場合のみ チェック可能になります。	0	0	O*2
増分同期	増分同期のスケジュールを設定します。*1	0	0	0*2
フル同期	フル同期のスケジュールを設定します。* 1	0	0	0*2
前回実行日時	直近で同期した日時を表示します。	0	0	0*2



15日夕	説明		クローン	/
項目名	武明	М	M2003	S
今すぐ同期処理を行う / 同期中止	設定した内容で同期します。フル同期と増分同期を選ぶことができます。 実行中の場合は、[同期中止] と表示され、クリックすると中止します。	0	0	O*2

M:マスター機用/M2003:Windows Server 2003用/S:スレーブ機用

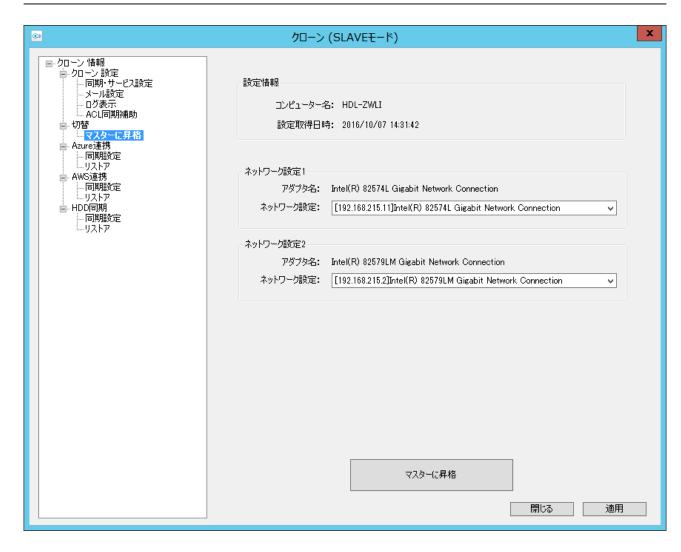
- ※1 最新の同期データに上書きされます。同期の履歴は残りません。
- ※2 確認のみです。設定はできません。

▶マスター / スレーブ間同期

19

【もくじ】へ

切替 - マスターに昇格(スレーブのみ)



· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	=4.00		クローン		
項目名	説明 	М	M2003	S	
設定情報	マスター機のコンピューター名と設定情報を取得した日時を表示します。	_	_	0	
ネットワーク設定x ※xはLANポート の番号	マスター機のネットワーク設定をどちらのLANポートに割り振るか設定します。 ネットワーク設定xがLANポートxになります。 例)ネットワーク設定2がLANポート2	_	_	0	
マスターに昇格	スレーブをマスターに切り替えます。	_	_	0	

M:マスター機用/M2003:Windows Server 2003用/S:スレーブ機用

▶ワークグループ環境でマスターがダウンした場合



Azure 連携 - 同期設定

<u> </u>	クローン (MASTERモード)	x
□-クローン 情報 □-クローン 情報 □-クローン 設定 □	ジョブ名 同期元	
	新規ジョブ作成 編集 削除 ジョブ設定 ジョブ名 マンSSを利用する マンSSを利用する 同期元フォルダー 同期先 Azure アカウント名 Azure	

百日夕	 1名 説明		クローン	ン	
項目名	武ツ	М	M2003	S	
ジョブ名・同期元	作成した同期一覧を表示します。	0	0	0	
新規ジョブ作成	ジョブを新規作成し、設定します。	0	0	0	
編集	選んだジョブを編集します。	0	0	0	
削除	選んだジョブを削除します。	0	0	0	
ジョブ名	ジョブの名前を設定します。	0	0	0	
同期元フォルダー	マスターの同期する共有フォルダーを設定します。	0	0	0	
同期先 Azure コンテナー名	同期先Microsoft Azureのコンテナー名を入力します。	0	0	0	
Azureアカウント名	同期先Microsoft Azureのアカウント名を入力します。	0	0	0	
Azureアクセスキー	同期先Microsoft Azureのアクセスキーを入力します。	0	0	0	
増分同期	増分同期のスケジュールを設定します。*	0	0	0	
フル同期	フル同期のスケジュールを設定します。*	0	0	0	
前回実行日時	直近で同期した日時を表示します。	0	0	0	
今すぐ同期処理を行う / 同期中止	設定した内容で同期します。フル同期と増分同期を選ぶことができます。 実行中の場合は、[同期中止] と表示され、クリックすると中止します。	0	0	0	

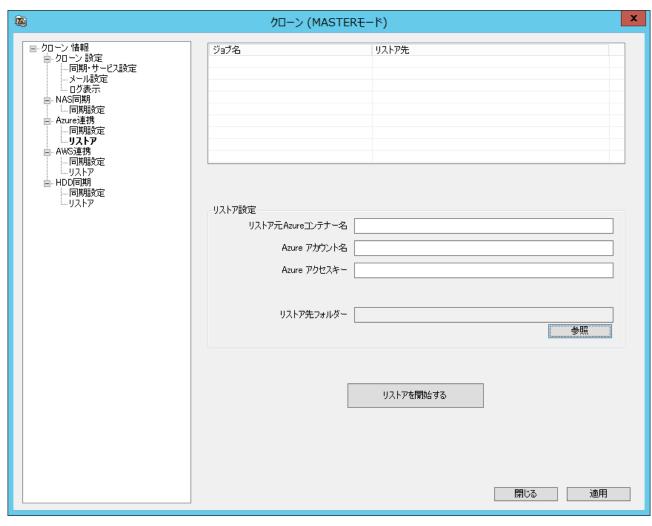
M:マスター機用/M2003:Windows Server 2003用/S:スレーブ機用

※同期の履歴は残りません。

▶ Microsoft Azureと同期する



Azure 連携 - リストア



百日夕	EMOR		クローン	/
項目名	説明	М	M2003	S
ジョブ名・同期元	作成した同期一覧を表示します。	0	-	0
リストア元 Azure コンテナー名	リストア元に使っていたMicrosoft Azureのコンテナー名を入力します。	0	_	0
Azureアカウント名	Microsoft Azureのアカウントを入力します。	0	-	0
Azureアクセスキー	コンテナーのアクセスキーを入力します。	0	-	0
リストア先フォルダー	リストア先のフォルダーを設定します。	0	_	0
リストアを開始する	Microsoft Azureからのリストアを開始します。	0	_	0

M:マスター機用/M2003:Windows Server 2003用/S:スレーブ機用

▶ Microsoft Azureから復旧する



AWS 連携 - 同期設定

<u> </u>	クローン (MASTERモード)	x
■ クローン 情報 ・ クローン 設定 ・ 同期・サービス設定 ・ NAS同期 ・ NAS同期 ・ NAS同期 ・ リストア ・ AWG連携 ・ リストア ・ HDD同期 ・ リストア ・ リストア	グローン (MASTERモード) ジョブ名 同期元 新規ジョブ作成 編集 肖	x
	同期先AWSJ いかト名	

項目名 説明		クローン		/
以日 石	武ツ	М	M2003	S
ジョブ名・同期元	作成した同期一覧を表示します。	0	0	0
新規ジョブ作成	ジョブを新規作成し、設定します。	0	0	0
編集	選んだジョブを編集します。	0	0	0
削除	選んだジョブを削除します。	0	0	0
ジョブ名	ジョブの名前を設定します。	0	0	0
同期元フォルダー	マスターの同期する共有フォルダーを設定します。	0	0	0
同期先 AWS パケッ ト名	同期先Amazon S3のバケット名を入力します。 (同期先として使用可能なバケットは、すでに存在しているバケットである必要があります。)	0	0	0
AWSアクセスキー ID	同期先Amazon S3のアカウントキーを入力する。	0	0	0
エンドポイント指定	AWS互換サービスを使用する場合のエンドポイントを指定します。	0	0	0
AWS シークレット アクセスキー	同期先Amazon S3のシークレットアクセスキーを入力します。	0	0	0
増分同期	増分同期のスケジュールを設定します。*	0	0	0
フル同期	フル同期のスケジュールを設定します。*	0	0	0
前回実行日時	直近で同期した日時を表示します。	0	0	0
今すぐ同期処理を行 う / 同期中止	設定した内容で同期します。フル同期と増分同期を選ぶことができます。 実行中の場合は、[同期中止] と表示され、クリックすると中止します。	0	0	0

M:マスター機用/M2003:Windows Server 2003用/S:スレーブ機用

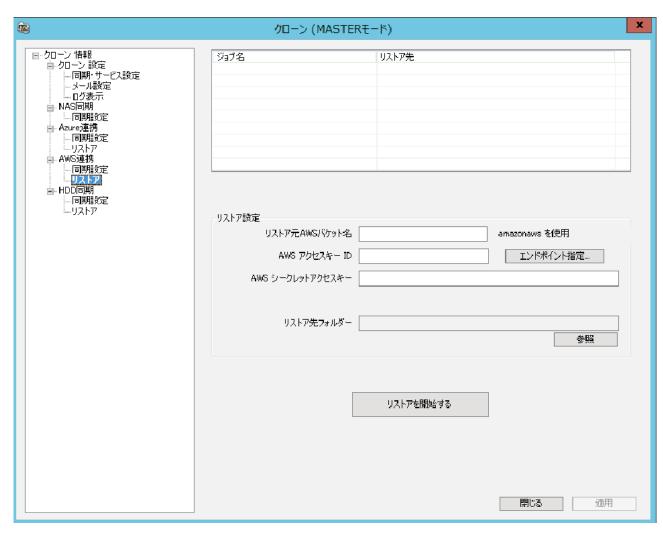
[※]同期の履歴は残りません。







AWS 連携 - リストア



(古口 <i>点</i>	=×n□		クローン	/
項目名	説明 	М	M2003	S
ジョブ名・同期元	作成した同期一覧を表示します。	0	_	0
リストア元 AWSパ ケット名	リストア元 Amazon S3のバケット名を入力します。	0	_	0
AWSアクセスキー ID	リストア元Amazon S3のアカウントキーを入力する。	0	_	0
エンドポイント指定	AWS互換サービスを使用する場合のエンドポイントを指定します。	0	_	0
AWS シークレット アクセスキー	リストア元 Amazon S3のシークレットアクセスキーを入力します。	0	_	0
リストア先フォルダー	リストア先のフォルダーを設定します。	0	_	0
リストアを開始する	Amazon S3からのリストアを開始します。	0	_	0

M:マスター機用/M2003:Windows Server 2003用/S:スレーブ機用

▶ Amazon S3から復旧する



HDD 同期 - 同期設定

ウハーン 物理 ウルーン 設定 一同期・サービス設定 ケール 投資 フリチス フリチス フリチス 一同期 サービス設定 ケール 投資 日の期間定 日の期間定 日の期間定 リストア 日の期間定 リストア 日の期間で リストア 日の期間で リストア 日の間 日の 日の	<u>©</u>	クローン (MASTERモード)
HDD同期	- 白- クローン 設定 - 一	ジョブ名 同期元
□ □ □ 月 □ 火 □ 水 □ 木 □ 金 □ 土 □ 申 □ □ 分 分 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	⊟- HDD同期 	ジョブ設定
前回実行日時		日 月 火 水 木 金 土 以 時 以 分 分 対 対 対 対 対 対 対

項目名 説明			クローン	/
- 块日石 	武ツ	М	M2003	S
ジョブ名・同期元	作成した同期一覧を表示します。	\circ	0	\circ
新規ジョブ作成	ジョブを新規作成し、設定します。	0	0	0
編集	選んだジョブを編集します。	0	0	0
削除	選んだジョブを削除します。	0	0	0
ジョブ名	ジョブの名前を設定します。	0	0	0
同期元フォルダー	マスターの同期する共有フォルダーを設定します。	0	0	0
同期先ベースフォル ダー	[参照]をクリックして、同期先のフォルダーを選択します。 (同期先は、このベースフォルダーに同期元の最下位フォルダー名が付加されます。)	0	0	0
同期先フォルダー	同期先フォルダーが表示されます。(自動入力)	\circ	0	0
増分同期	増分同期のスケジュールを設定します。*	0	0	0
フル同期	フル同期のスケジュールを設定します。*	0	0	0
前回実行日時	直近で同期した日時を表示します。	0	0	0
今すぐ同期処理を行う / 同期中止	設定した内容で同期します。フル同期と増分同期を選ぶことができます。 実行中の場合は、[同期中止] と表示され、クリックすると中止します。	0	0	0

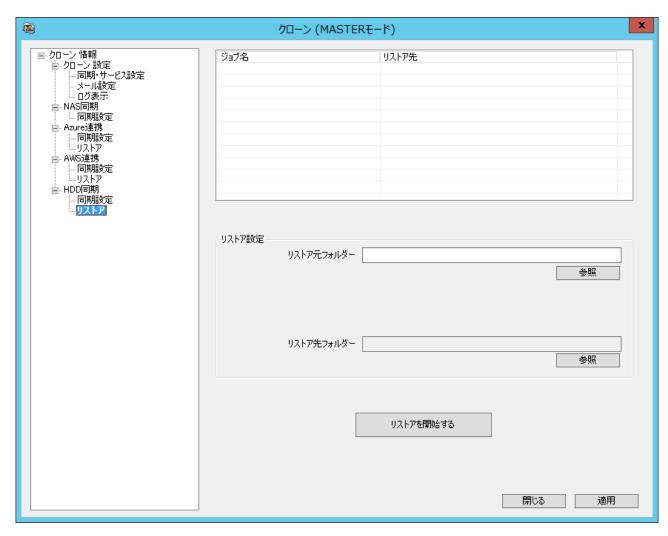
M:マスター機用/M2003:Windows Server 2003用/S:スレーブ機用

※同期の履歴は残りません。

▶ 外付けHDD同期 32



HDD 同期 - リストア



百口夕	EMBH		クローン	/
項目名	説明 	М	M2003	S
ジョブ名・同期元	作成した同期一覧を表示します。	0	_	0
リストア元フォルダー	リストア元外付けHDDのフォルダーを入力します。	0	_	0
リストア先フォルダー	リストア先のフォルダーを設定します。	0	_	0
リストアを開始する	外付けHDDからの復旧を開始します。	0	_	0

M:マスター機用/M2003:Windows Server 2003用/S:スレーブ機用

▶外付けHDDからの復旧



ログ表示

NarSuS 連携について

ログ情報はNarSuSでも通知されます。別途NarSuSアプリのインストールと製品登録が必要になります。詳しくは、NarSuSサイトをご確認ください。

https://www.narsus.jp/

※以下の●は、メールアドレス設定で「同期正常終了時にもメール通知する」にチェックした場合にのみ通知されることを示しています。 ※以下の◎は、NarSuSからアラートメールが送信されることを示しています。

NAS 同期サービス

		通知			
表示内容	説明	ログ ファイル	イベントログ	メール	NarSuS
クローンNAS同期サービス を開始し ました。	サービスを開始した	0	0	_	0
クローンNAS同期サービス を終了し ました。	サービスを終了した (サーバーシャットダウン含む)	0	0	_	0
クローンNAS同期サービス を一時停止しました。	サービスを一時停止した	0	_	_	0
クローンNAS同期サービス を再開し ました。	サービスを再開した	0	0	_	0
サービス設定の読み込みに成功しまし た。	共通設定の読み込みに成功した	0	_	_	_
ジョブ設定の読み込みに成功しました。 (ジョブ数:*ジョブ数*)	ジョブ設定の読み込みに成功した	0	_	_	_
メール通知設定の読み込みに成功しま した。	メール設定の読み込みに成功した	0	_	_	_
ジョブ[*ジョブ名*]が実行待機状態に なりました。	実行数が上限に達していて実行待機になった	0	_	_	_
待機中だったジョブ[*ジョブ名*]の同期を開始します。	待機中だったジョブが開始される	0	_	_	_
ジョブ[*ジョブ名*]は既に実行中・実 行待機中です。	実行しようとしたジョブが実行中	0	_	_	_
ジョブ[*ジョブ名*] *個数*個の増分 フォルダー/ファイル削除が完了しま した。	削除完了時(全フォルダー/ファイル成功)	0	_	_	_
ジョブ[*ジョブ名*] *個数*個の増分 フォルダー/ファイル削除が完了し、* 個数*個のフォルダー/ファイル削除 に失敗しました。	削除完了時(エラーフォルダー/ファイルあり)	0	_	_	_
ジョブ[*ジョブ名*] *個数*個の増分 フォルダー/ファイルが削除できませ んでした。	削除完了時(全フォルダー/ファイル失敗)	0	_	_	_
ジョブ[*ジョブ名*] *個数*個(内スキップ*個数*個)の同期が完了し、*個数* 個のフォルダー/ファイル同期に失敗しました。	コピー完了時(エラーフォルダー/ファイルあり)	0	_	_	_
ジョブ[*ジョブ名*] *個数*個のフォル ダー/ファイルが同期できませんでし た。	コピー完了時(全フォルダー/ファイル失敗)	0	_	_	_
ジョブ[*ジョブ名*] *個数*個のフォル ダー/ファイル再削除が完了しました。	再削除完了時(全フォルダー/ファイル成功)	0	_	_	_

表示内容	説明	通知 ログ ファイル	イベント	メール	NarSuS
ジョブ[*ジョブ名*] *個数*個のフォルダー/ファイル再削除が完了し、*個数*個のフォルダー/ファイル再削除に失敗しました。	再削除完了時(エラーフォルダー/ファイルあり)	0	_	_	_
ジョブ[*ジョブ名*] *個数*個のフォル ダー/ファイル再同期が完了しました。	再コピー完了時(全フォルダー/ファイル成功)	0	_	_	_
ジョブ[*ジョブ名*] *個数*個のフォルダー/ファイル同期に成功し、*個数*個のフォルダー/ファイル同期に失敗しました。	コピー完了時(全フォルダー/ファイル失敗)	0	_	_	_
ジョブ[*ジョブ名*] *個数*個のエラー ログを省略しました。	エラーログの数が上限値を超えていた	0	_	_	_
ジョブ[*ジョブ名*] *個数*個のフォルダー/ファイル削除をリトライします。	削除に失敗したフォルダー/ファイルをリトラ イする時	0	_	-	_
ジョブ[*ジョブ名*] *個数*個のフォルダー/ファイル同期をリトライします。	コピーに失敗したフォルダー/ファイルをリト ライする時	0	_	_	_
前回サービス終了時にジョブ [* ジョブ 名*] が実行中・実行待機中でした。	サービス起動時にジョブの実行中フラグが有効 のままだった時	0	0	0	_
ログのメール送信に失敗しました。	ログのメール送信に失敗した時	0	0	0	_
ログのイベントログ記録に失敗しました。	ログのイベントログ記録に失敗した時	0	0	0	_
ログのファイル記録に失敗しました。	ログのファイル記録に失敗した時	0	0	0	_
サービス設定の読み込みに失敗しました。	共通設定の読み込みに失敗した時	0	0		_
メール通知設定の読み込みに失敗しま した。	メール設定の読み込みに失敗した時	0	0	_	_
ジョブ設定の読み込みに失敗しました。	ジョブ設定の読み込みに失敗した時	0	0	_	_
ジョブデータが不正です。	ジョブの設定情報が不正だった時	0	0	0	_
ジョブ[*ジョブ名*] 同期先リストファイルの作成に失敗しました。(エラーコード:*コード番号*)*ファイル名*	リストファイルの作成に失敗した時	0	0	_	_
ジョブ[*ジョブ名*] リストファイルの 終了処理に失敗しました。(エラーコー ド:*コード番号*)*ファイル名*	同期用リストファイルの終了処理に失敗した時	0	0	_	_
設定情報の同期に失敗しました。(エラーコード:*コード番号*)	設定情報の同期に失敗した時	0	0	_	_
ジョブ設定の同期に失敗しました。(エラーコード:*コード番号*)	ジョブ設定の同期に失敗した時	0	0	_	_
情報取得ツールを起動できませんでした。(エラーコード:*コード番号*)	NW情報取得ツールの実行に失敗した時	0	0	_	_
情報取得ツールから終了コードを取得できませんでした。(エラーコード:*コード番号*)	NW情報取得ツールの結果取得に失敗した時	0	0	=	_
コンピューター名の取得に失敗しまし た。	NW情報取得ツールがコンピューター名の取得 に失敗した時	0	0	_	_
IPアドレスの取得に失敗しました。	NW情報取得ツールがIPアドレスの取得に失敗 した時	0	0	-	_
ユーザー情報の取得に失敗しました。	NW情報取得ツールがユーザー情報の取得に失敗した時	0	0	-	_
グループ情報の取得に失敗しました。	NW情報取得ツールがグループ情報の取得に失 敗した時	0	0		



		\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\			
表示内容	 説明 	通知 ログ ファイル	イベント	メール	NarSuS
グループメンバ情報の取得に失敗しま した。	NW情報取得ツールがグループメンバ情報の取得に失敗した時	0	0	_	_
共有フォルダー情報の取得に失敗しま した。	NW情報取得ツールが共有フォルダー情報の取得に失敗した時	0	0	_	_
設定ファイルの作成に失敗しました。	NW情報取得ツールが設定ファイルの作成に失敗した時	0	0	_	_
設定ファイルの書き込みに失敗しました。	NW情報取得ツールが設定ファイルの書き込み に失敗した時	0	0	_	_
設定ファイルが正しく保存できません でした。	NW情報取得ツールが設定ファイルの保存に失敗した時	0	0	=	_
ワークグループ・ドメイン情報の取得 に失敗しました。	NW情報取得ツールがワークグループ・ドメイン情報の取得に失敗した時	0	0	_	_
ジョブ[*ジョブ名*] 同期先ファイルの 削除に失敗しました。(エラーコード:* コード番号*)*ファイル名*	同期先ファイルの削除に失敗した時	0	_	=	_
ジョブ[*ジョブ名*] 同期先フォルダー の削除に失敗しました。(エラーコード:* コード番号*) *ファイル名*	同期先フォルダーの削除に失敗した時	0	_	_	-
ジョブ[*ジョブ名*] ファイル時刻のコピーに失敗しました。(エラーコード:*コード番号*)*ファイル名*	ファイル時刻のコピーに失敗した時	0	_	_	_
ジョブ[*ジョブ名*] ファイル属性のコピーに失敗しました。(エラーコード:*コード番号*)*ファイル名*	ファイル属性のコピーに失敗した時	0	_	_	_
ジョブ[*ジョブ名*] ファイルコピーに 失敗しました。(エラーコード:*コード 番号*) *ファイル名*	ファイルのコピーに失敗した時	0	_	_	_
ジョブ[*ジョブ名*] フォルダー作成に 失敗しました。(エラーコード:*コード 番号*) *ファイル名*	フォルダーの作成に失敗した時	0	_	-	_
ジョブ[*ジョブ名*] ファイルオープン に失敗しました。(エラーコード:*コー ド番号*) *ファイル名*	同期先ファイルのオープンに失敗した時	0	_	_	_
ジョブ[*ジョブ名*] コピー先の容量が 足りませんでした。(エラーコード:*コード番号*) *ファイル名*	同期先の空き容量がなくなった時	0	_	_	_
ジョブ[*ジョブ名*] ファイル時刻のコピーに失敗しました。(エラーコード:*コード番号*)*ファイル名*	ファイル時刻のコピーに失敗した時	0	_	_	_
ジョブ[*ジョブ名*] ファイル属性のコピーに失敗しました。(エラーコード:*コード番号*)*ファイル名*	ファイル属性のコピーに失敗した時	0	_	_	_
ジョブ[*ジョブ名*] 同期用パイプの WRITEに失敗しました。(エラーコー ド:*コード番号*) *ファイル名*	同期スレッドとのパイプ通信(WRITE)に失敗し た時	0	_	_	_
ジョブ[*ジョブ名*] 同期用パイプの READに失敗しました。(エラーコード:* コード番号*) *ファイル名*	同期スレッドとのパイプ通信 (READ) に失敗した時	0	_	_	_
ジョブ[*ジョブ名*] リトライ用ファイルの削除に失敗しました。(エラーコード:*コード番号*) *ファイル名*	リトライ用ファイルの削除に失敗した時	0	0	_	_
ジョブ[*ジョブ名*] リトライ用ファイルの更新に失敗しました。(エラーコード:*コード番号*)*ファイル名*	リトライ用ファイルの更新に失敗した時	0	0	_	_



表示内容	説明	通知 ログ ファイル	イベントログ	メール	NarSuS
ジョブ[*ジョブ名*] 同期コマンドが正	スレッド間のコマンドが不正だった時				
しくありませんでした。(エラーコード:* コード番号*) *ファイル名*		0	_	_	_
ジョブ[*ジョブ名*] ファイルコピーに 成功しました。*ファイル名*	ファイルコピーに成功した時	0	_	_	_
ジョブ[*ジョブ名*] ファイルコピーを スキップしました。*ファイル名*	ファイルコピーをスキップした時	0	_	_	_
ジョブ[*ジョブ名*]の同期を開始します。	同期が開始された時	0	0	_	0
ジョブ[*ジョブ名*]を編集、削除しました。	 同期ジョブを編集、削除した時 	0	0	_	0
ジョブ[*ジョブ名*] *個数*個(内スキッ	同期完了時(全フォルダー/ファイル成功)				
プ*個数*個)のフォルダー/ファイル 同期が完了しました。		0	0	•	0
ジョブ[*ジョブ名*] *個数*個(内スキップ*個数*個)の同期が完了し、*個数*	同期完了時(エラーフォルダー/ファイルあり)	0		0	©
個のフォルダー/ファイル同期に失敗 しました。					
ジョブ[*ジョブ名*] *個数*個のフォル ダー/ファイルが同期できませんでし	同期完了時(全フォルダー/ファイル失敗)	0	0	0	0
た。					
ジョブ[*ジョブ名*] 同期中止までに* 個数*個(内スキップ*個数*個)のフォ	コピー中に同期が中止になった時(全フォルダー/ファイル成功)	0	0	0	0
ルダー/ファイル同期が完了しました。 ジョブ[*ジョブ名*] 同期中止までに*	コピー中に同期が中止になった時(エラーファ				
個数*個(内スキップ*個数*個)の同期 が完了し、*個数*個の同期に失敗しま	イルあり)	0	0	0	0
した。 ジョブ[*ジョブ名*] 同期中止までに*	 				
ジョン(「ジョン名」) 同期中止までに 個数*個のフォルダー/ファイル削除 が完了しました。	削床中に向射を中止した時 	0	0	0	0
ジョブ[*ジョブ名*] 同期中止までに* 個数*個のフォルダー/ファイル削除	削除中に同期が中止になった時(エラーフォル ダー/ファイルあり)				
が完了し、*個数*個のフォルダー/ファイル削除に失敗しました。	י פשטור איז	0	0	0	0
ジョブ[*ジョブ名*] 同期元フォルダーが正しくありません。(エラーコード:*	同期元フォルダーのチェックに失敗した時	0	0	0	0
コード番号*) *ファイル名*		0			
ジョブ[*ジョブ名*] 同期用メモリの確保に失敗しました。(エラーコード:*コード番号*) *ファイル名*	同期用メモリの確保に失敗した時 	0	0	0	0
ジョブ[*ジョブ名*] ネットワークドラ イブが見つかりませんでした。(エラー	同期先のネットワークフォルダーが見つからな かった時	0	0	0	0
	ネットワーク接続用ユーザーへのログインに失				
用ユーザーへのログインに失敗しました。(エラーコード:*コード番号*)	敗した時	0	0	0	0
ジョブ[*ジョブ名*] ネットワークドラ イブへのログインに失敗しました。(エ ラーコード:*コード番号*) *ファイル 名*	同期先ネットワークフォルダーへのログインに 失敗した時	0	0	0	©
ジョブ[*ジョブ名*] 同期先フォルダー が正しくありません。(エラーコード:* コード番号*) *ファイル名*	同期先フォルダーのチェックに失敗した時	0	0	0	0

		通知			
表示内容	説明	ログ ファイル	イベント ログ	メール	NarSuS
ジョブ[*ジョブ名*] 同期先のクローンのバージョンが違います。(エラーコード:*コード番号*)*同期元のフォルダー名*	マスターとスレーブでクローンのバージョンが 違う	0	0	0	0
ジョブ[*ジョブ名*] 指定された同期先は、他のコンピューターの同期先に使用されているため、同期できません。(エラーコード:*コード番号*)*同期元のフォルダー名*	すでに使われている同期先	0	0	0	0

Azure 連携サービス

		通知			
表示内容	説明	ログファイル	イベントログ	メール	 NarSuS
 クローンAzure 連携サービス を開始し	サービス開始時	77170	ログ		
ました。		0	0	_	0
クローンAzure連携サービス を終了し	サービス終了時(サーバーシャットダウン含む)				
ました。			0	-	_
クローンAzure連携サービス を一時停	サービス一時停止時		_		
止しました。		0	_	_	
クローン Azure 連携サービス を再開しました。	サービス再開時	0	0	_	0
	リストアが開始された時	0	0	_	_
 [Azure リストア] *個数*個のリストア	リストア完了時(全ファイル成功)				
が完了しました。		0	0		
[Azureリストア] *個数*個のリストア	リストア完了時(エラーファイルあり)				
が完了し、*個数*個のリストアに失敗		0	0	0	0
しました。					
[Azureリストア] リストア中止までに *個数*個のリストアが完了しました。	リストア中止時(エラーファイル無し)	0	0	_	
[Azureリストア] リストア中止までに	リストア中止時(エラーファイルあり)				
*個数*個のリストアが完了し、*個数*		0	0	_	_
個のリストアに失敗しました。					
[Azureリストア] *個数*個のフォル	リストア完了時(全フォルダー/ファイル失敗)				
ダー/ファイルがリストアできません でした。			0	0	
 [Azure リストア] リストア先フォル	リストア先フォルダーが正しくなかったとき				
ダーが正しくありません。(エラーコー	リストケ元フォルターが正しくなかりたこと 		0	0	
ド:*コード番号*)*ファイル名*					
[Azure リストア] リストア用メモリの					
確保に失敗しました。(エラーコード:*	27/1 / //3/ E 2 -25#E//(-2/000 G)/CF3		0	0	
コード番号*)*ファイル名*					
ジョブ[*ジョブ名*]の同期を開始しま	同期が開始された時	0	0	_	0
<u></u> \$.					
ジョブ[*ジョブ名*]を編集、削除しま	同期ジョブを編集、削除した時		0	_	
した。					
ジョブ[*ジョブ名*] *個数*個(内スキッ	同期完了時(全フォルダー/ファイル成功)				
プ*個数*個)のフォルダー/ファイル			0	0	
同期が完了しました。 	 同期完了時 (エラーフォルダー/ファイルあり)				
プ*個数*個)の同期が完了し、*個数*					
個のフォルダー/ファイル同期に失敗		0	0	0	0
しました。					
	同期完了時(全フォルダー/ファイル失敗)				
ダー/ファイルが同期できませんでし		0	0	0	
<u>た。</u>					
ジョブ[*ジョブ名*] 同期中止までに*	コピー中に同期が中止になった時(全フォルダー				
個数*個(内スキップ*個数*個)のフォ	/ファイル成功)	0	0	0	0
ルダー/ファイル同期が完了しました。					
ジョブ[*ジョブ名*] 同期中止までに*	コピー中に同期が中止になった時(エラーファイ				
個数*個(内スキップ*個数*個)の同期	ルあり)		0	0	0
が完了し、*個数*個の同期に失敗しました。					
りょう[ショラ石] 向射中止ように 個数*個のフォルダー/ファイル削除	アルリング・イエロ/CM2、イエロ/CM3、大口には、		0	0	
が完了しました。					

		通知			
表示内容	説明	ログ ファイル	イベント ログ	メール	NarSuS
ジョブ[*ジョブ名*] 同期中止までに*個数*個のフォルダー/ファイル削除が完了し、*個数*個のフォルダー/ファイル削除に失敗しました。	削除中に同期が中止になった時(エラーフォルダー/ファイルあり)	0	0	0	0
ジョブ[*ジョブ名*] 同期元フォルダー が正しくありません。(エラーコード:* コード番号*) *ファイル名*	同期元フォルダーのチェックに失敗した時	0	0	0	0
ジョブ[*ジョブ名*] 同期用メモリの確保に失敗しました。(エラーコード:*コード番号*) *ファイル名*	同期用メモリの確保に失敗した時	0	0	0	0
ジョブ[*ジョブ名*] 指定された同期先は、他のコンピューターの同期先に使用されているため、同期できません。(エラーコード:*コード番号*)*同期元のフォルダー名*	すでに使われている同期先	0	0	0	©

AWS 連携サービス

		通知			
表示内容	説明	ログファイル	イベントログ	メール	NarSuS
クローンAWS連携サービス を開始しました。	サービス開始時	0	0	_	0
クローンAWS連携サービス を終了し ました。	サービス終了時(サーバーシャットダウン含む)	0	0	_	_
クローンAWS連携サービス を一時停止しました。	サービス一時停止時	0	_	_	0
クローンAWS連携サービス を再開し ました。	サービス再開時	0	0	_	0
AWSからのリストアを開始します。	リストアが開始された時	0	0	_	_
[AWSリストア] * 個数 * 個のリストア が完了しました。	リストア完了時(全ファイル成功)	0	0	•	0
[AWSリストア] *個数*個のリストアが完了し、*個数*個のリストアに失敗しました。	リストア完了時(エラーファイルあり)	0	0	0	0
[AWSリストア] *個数*個のフォルダー /ファイルがリストアできませんでし た。	リストア完了時(全フォルダー/ファイル失敗)	0	0	0	0
[AWSリストア] リストア中止までに %1!s!個のリストアが完了しました。	リストア中止時(エラーファイル無し)	0	0	_	_
[AWSリストア] リストア中止までに* 個数*個のリストアが完了し、*個数* 個のリストアに失敗しました。	リストア中止時(エラーファイルあり)	0	0	_	_
[AWSリストア] リストア先フォルダー が正しくありません。(エラーコード:* コード番号*) *ファイル名*	リストア先フォルダーが正しくなかったとき	0	0	0	0
[AWSリストア] リストア用メモリの 確保に失敗しました。(エラーコード:* コード番号*) *ファイル名*	リストア用メモリの確保に失敗した時	0	0	0	0
ジョブ[*ジョブ名*]の同期を開始しま す。	同期が開始された時	0	0	_	0
ジョブ[*ジョブ名*]を編集、削除しま した。	同期ジョブを編集、削除した時	0	0	=	0
ジョブ[*ジョブ名*] *個数*個(内スキップ*個数*個)のフォルダー/ファイル同期が完了しました。	同期完了時(全フォルダー/ファイル成功)	0	0	•	0
ジョブ[*ジョブ名*] *個数*個(内スキップ*個数*個)の同期が完了し、*個数* 個のフォルダー/ファイル同期に失敗しました。	同期完了時(エラーフォルダー/ファイルあり)	0	0	0	0
ジョブ[*ジョブ名*] *個数*個のフォルダー/ファイルが同期できませんでした。	同期完了時(全フォルダー/ファイル失敗) 	0	0	0	0
ジョブ[*ジョブ名*] 同期中止までに* 個数*個(内スキップ*個数*個)のフォ ルダー/ファイル同期が完了しました。	コピー中に同期が中止になった時(全フォルダー /ファイル成功)	0	0	0	0
ジョブ[*ジョブ名*] 同期中止までに* 個数*個(内スキップ*個数*個)の同期が完了し、*個数*個の同期に失敗しました。	コピー中に同期が中止になった時(エラーファイ ルあり)	0	0	0	0
ジョブ[*ジョブ名*] 同期中止までに* 個数*個のフォルダー/ファイル削除 が完了しました。	削除中に同期を中止した時	0	0	0	0



		通知			
表示内容	説明	ログ ファイル	イベント ログ	メール	NarSuS
ジョブ[*ジョブ名*] 同期中止までに* 個数*個のフォルダー/ファイル削除が完了し、*個数*個のフォルダー/ファイル削除に失敗しました。	削除中に同期が中止になった時(エラーフォルダー/ファイルあり)	0	0	0	©
ジョブ[*ジョブ名*] 同期元フォルダーが正しくありません。(エラーコード:* コード番号*) *ファイル名*	同期元フォルダーのチェックに失敗した時	0	0	0	0
ジョブ[*ジョブ名*] 同期用メモリの確保に失敗しました。(エラーコード:*コード番号*) *ファイル名*	同期用メモリの確保に失敗した時	0	0	0	0
ジョブ[*ジョブ名*] 指定された同期先は、他のコンピューターの同期先に使用されているため、同期できません。(エラーコード:*コード番号*)*同期元のフォルダー名*	すでに使われている同期先	0	0	0	0



外付け HDD 同期サービス

表示内容	説明	通知 ログ ファイル	イベント	メール	NarSuS
クローンHDD同期サービス を開始しました。	サービス開始時	0	0	-	0
クローンHDD同期サービス を終了し ました。	サービス終了時(サーバーシャットダウン含む)	0	0	_	_
クローンHDD同期サービス を一時停止しました。	サービス一時停止時	0	_	=	0
クローンHDD同期サービス を再開しました。	サービス再開時	0	0	-	0
ジョブ[*ジョブ名*]の同期を開始しま す。	同期が開始された時	0	0	_	0
ジョブ[*ジョブ名*]を編集、削除しま した。	同期ジョブを編集、削除した時	0	0	_	0
ジョブ[*ジョブ名*] *個数*個(内スキップ*個数*個)のフォルダー/ファイル同期が完了しました。	同期完了時(全フォルダー/ファイル成功)	0	0	•	0
ジョブ[*ジョブ名*] *個数*個(内スキップ*個数*個)の同期が完了し、*個数* 個のファイル同期に失敗しました。	同期完了時(エラーファイルあり)	0	0	0	0
ジョブ[*ジョブ名*] *個数*個のフォルダー/ファイルが同期できませんでした。	同期完了時(全フォルダー/ファイル失敗)	0	0	0	0
ジョブ[*ジョブ名*] 同期中止までに* 個数*個(内スキップ*個数*個)のフォ ルダー/ファイル同期が完了しました。	コピー中に同期が中止になった時(全フォルダー /ファイル成功)	0	0	0	0
ジョブ[*ジョブ名*] 同期中止までに* 個数*個(内スキップ*個数*個)の同期 が完了し、*個数*個の同期に失敗しま した。	コピー中に同期が中止になった時(エラーファイ ルあり)	0	0	0	0
ジョブ[*ジョブ名*] 同期中止までに* 個数*個のフォルダー/ファイル削除が完了しました。	削除中に同期を中止した時	0	0	0	0
ジョブ[*ジョブ名*] 同期中止までに* 個数*個のフォルダー/ファイル削除 が完了し、*個数*個のフォルダー/ファ イル削除に失敗しました。	削除中に同期が中止になった時(エラーフォルダー/ファイルあり)	0	0	0	0
ジョブ[*ジョブ名*] 同期元フォルダーが正しくありません。(エラーコード:* コード番号*) *ファイル名*	同期元フォルダーのチェックに失敗した時	0	0	0	0
ジョブ[*ジョブ名*] 同期用メモリの確保に失敗しました。(エラーコード:*コード番号*) *ファイル名*	同期用メモリの確保に失敗した時	0	0	0	0
ジョブ[*ジョブ名*] 同期先フォルダー が正しくありません。(エラーコード:* コード番号*) *ファイル名*	同期先フォルダーのチェックに失敗した時	0	0	0	0



困ったときには

同期が実行できない

- 同期設定を再度確認してください。
- マスターを再起動してみてください。

同期がエラー終了する

- マスターとスレーブで同じバージョンのクローンがインストールされていることを確認してください。
- 同期先の空き容量不足が考えられます。同期するファイルを減らしてください。
- 同期とユーザーのファイル操作が重複していたことが考えられます。 同期中はLAN DISKのファイル操作を極力ご遠慮ください。 他のファイルの同期は完了しています。該当ファイルは次回同期時に同期されます。
- [VSSを利用する] のチェックを外してお試しください。VSS実行中にファイル更新がおこなわれている場合、ファイル同期が正常に行われない場合があります。 ※VSSは、Windows Server 2003は対応しておりません。

上記で解決しない場合は、サポートセンターにお問い合わせください。

同期が実行されたのか確認したい

コンピューターの管理よりイベントログにて結果を確認できます。 メール通知設定をおこなうと ジョブ完了時にメールで結果を確認できます。 また、NarSuS に登録するとNarSuS からの通知で確認できます。

同期時刻が重なった場合はどうなりますか?

開始時刻が早いものから実行しそのジョブが完了後に、順次実行されます。

メールが送信できない

メール設定をご確認ください。 <u>【メール設定をする】(11ページ)</u>参照 メール設定後はテストメールを送信し、正常にメール送信できることをご確認ください。

同期データのファイルやフォルダー単位での復元(リストア)がしたい

ファイル単位での復元機能はありません。

スレーブには、マスターと同じファイル・フォルダー構成で配置されていますので、管理者が直接アクセスして取り出すことができます。

外付けHDDで同期した場合、管理者が直接外付けHDDにアクセスすることで、フォルダー 単位での復元ができます。

Microsoft Azureではコンテナー単位、Amazon S3 (AWS)ではバケット単位で、指定されたフォルダーへの復元ができます。

ネットワーク設定切替したら、エラーが表示された

「中断」ボタンをクリックし、以下の手順にしたがってください。

- ① 登録された「ユーザー」「グループ」「共有フォルダー」がマスターと同じ設定に切り替わっていることをご確認ください。
- ②切り替わっていない設定を、手動で設定します。
- ③ 再度切替ツールで切り替えをおこないます。
- ④ 【マスター / スレーブ間同期】 (19ページ) の手順 1 を参照し、スレーブ機として設定してください。
- ※ [続行] ボタンをクリックした場合は、そのまま「IPアドレス」と「コンピューター名」 の切り替えを行います。その後、④を行ってください。

スレーブ機をマスターに切り替えた後、アクセスできない

ユーザーパスワードが変更されていることが考えられます。

切り替え後のユーザーパスワードは、ユーザー名と同じになります。ユーザーごとにパスワードの再設定を行ってください。

※ すでにマスターと同じユーザーが存在していた場合、昇格時にパスワードは変更されません。

クラウドストレージへの同期に失敗する

クラウドストレージ同期に関する設定を、再度確認してください。

- 【NAS 同期 同期設定(マスターのみ)】(51ページ)参照
- 【Azure連携 同期設定】(54ページ) 参照
- <u>【AWS連携 同期設定】(56ページ)</u>参照
- 【HDD同期 同期設定】(58ページ)参照

ActiveDirectoryサーバーをマスター機にしたら、同期に失敗する

以下の操作をお試しください。

- ① マスター機にユーザー「synclogin」が作られています。 その「synclogin」を管理者グループ(Administrator) に所属させます。
- ② スレーブ機をActiveDirectoryから離脱させ、Workgroupモードで運用します。
- ③ マスター機で同期ジョブを設定する際、[同期先コンピューター名] にスレーブ機の名前を手入力します。
- ④ すべての操作が終わったら、同期が成功するかご確認ください。

外付けHDDへの同期に失敗する

同期元のLAN DISKに外付けHDDが正しく接続されていることをご確認ください。

マスター機とスレーブ機のファイル (フォルダー) 数に違いがある

- フル同期を実行してください。
- ログを確認し、エラーが発生していないか確認してください。
- マスター機の同期対象にシステムファイル(フォルダー)が含まれていないか確認してください。

マスター昇格時にエラーが発生する

- マスター機とIPアドレスの重複が発生していることが考えられます。マスター機をネットワークから取り外してください。
- その他のエラーが発生している可能性があります。以下に保存されているログファイルの内容をご確認ください。

C:\forage Program Data\forage I-O DATA\forage Syncwith BE\forage Log\forage ChHDLMinfo.log

※隠しファイルになっている可能性があります。エクスプローラーで、[隠しファイル、 隠しフォルダー、および隠しドライブを表示する] を有効にしてご確認ください。

